



第39期中間報告書

2018年4月1日 ▶ 2018年9月30日

...for patient comfort.

証券コード：7575

JL Japan Lifeline

主要連結財務データ

Financial Highlights

当上期決算のポイント

- 自社製品や新商品の伸長により公定価格引下げの影響を吸収し、二桁近い増収
- 当期は前期に計上した未実現利益の調整による売上総利益へのプラス効果が発生せず
- 新商品導入費用等の増加により営業利益は前年同期水準に留まる

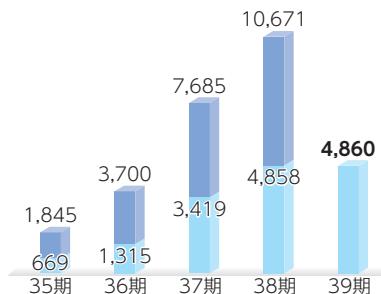
売上高

(単位: 百万円)



営業利益

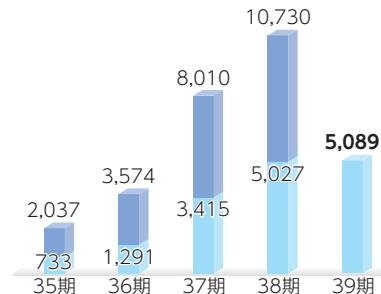
(単位: 百万円)



■ 第2四半期累計 ■ 通期

経常利益

(単位: 百万円)



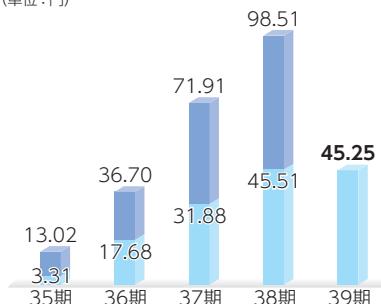
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益

(単位: 百万円)



1株当たり四半期(当期)純利益

(単位: 円)



自己資本比率

(単位: %)

● 第2四半期累計 ● 通期



当社は2015年10月1日、2016年12月1日および2018年1月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しております。35期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して「1株当たり四半期(当期)純利益」を算定しております。

ごあいさつ

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2019年3月期上期は自社製品のほか、新たに導入した新商品の寄与により売上が増加したものの、今後の成長のための先行投資により販管費が増加していることから、利益面での成長は一時的に足踏みとなりました。しかしながら、主力である不整脈治療事業においては長期的なパートナーとなるメーカーと新たな独占販売契約を締結するなど、今後の中長期にわたる成長に向けた基盤の強化を着実に進めております。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 鈴木 啓介



Q 2019年3月期上期の業績はいかがでしたか？

A 当上期の販売実績といたしましては、リズムデバイスとは、メーカーにおける遠隔モニタリング装置の供給の不足等により減収となった一方、EP/アブレーションでは、心房細動のアブレーション治療の症例数の増加により、関連商品が好調に推移したほか、内視鏡レーザーアブレーションシステムを上市いたしました。外科関連では、腹部用ステントグラフト等が伸びいたしました。さらにインターベンションでは、本年3月に発売した薬剤溶出型冠動脈ステントが、計画に対しては未達であったものの、売上増加に寄与いたしました。以上により

本年4月に医療機器の公定価格である保険償還価格の引下げがあったものの、二桁近い増収となりました。

利益面におきましては、売上の増加に伴い売上総利益は前年同期に比べ10億4千9百万円増加したものの、前年同期に計上した、子会社合併に伴う未実現利益の調整である5億2百万円の売上総利益のプラス効果が当期には生じないことから、売上総利益率は前年同期に比べ0.8ポイント低下いたしました。その一方で、販売費及び一般管理費におきましては、体制強化に向けた人員増に伴う人件費のほか、新商品導入に伴う広告宣伝費や自社製品の開発費用等が増加したことにより、当上期の営業利益は、前年同期と同じ水準に留まりました。

Q リズムデバイス事業の新規販売提携について教えてください。

A 本年11月にボストン・サイエンティフィック ジャパン社とCRM関連製品に関する独占販売契約を締結いたしました。グローバルで高い競争力のある製品群を有する同社と提携し、当社が独占的に国内における販売を行う枠組みを作ることによって、リズムデバイス事業の中長期的な成長に道筋をつけることができたと考えております。

特に同社が強みを持つICDやCRT-D等の頻脈治療領域の製品を取り扱うことにより、現在の徐脈(ペースメーカ)治療に偏った販売体制から、徐脈・頻脈が揃った本来のリズムデバイス事業の体制に立ち返ることが可能となり、当社の販売力を十分に発揮することができるものと期待しております。

同社と協力体制を構築し、リズムデバイス事業の規模拡大を図ることで、当社の根幹である不整脈治療領域の競争力をさらに高めてまいります。

Q 新商品の薬剤溶出型冠動脈ステントの販売状況はいかがでしょう？

A 本年3月より薬剤溶出型冠動脈ステント(DES)「Orsiro(オシロ)」の販売を開始いたしました。当社としては初の取扱いとなる医療機器ですが、大型新商品として重点的に取り組んでおります。しかしながら先行企業との販売経験や体制面での差により、販売が計画を下回っており、当初の目標であるマーケットシェア15%を8%へ引き下げました。今後、サイズラインナップの

拡充や国内における臨床研究の実施を通じて認知度を高めること等により、販売数量の増加を図ってまいります。

また、インターベンションにおきましては、冠動脈の狭窄を示す、FFR(冠血流予備量比)の測定に用いるデバイスであるオプセンス社の「OptoWire(オプトワイヤ)」について、ゼオンメディカル社と特約販売代理店契約を結び、本年10月より取扱いを開始しております。今後も商品ラインナップのさらなる拡充を図ることで、インターベンション領域を強化してまいります。

Q 胸部用ステントグラフトの導入方針変更について教えてください。

A 胸部用のステントグラフトについて、昨年9月よりエンドロジックス社と共同研究開発を行ってまいりましたが、本年10月に、エンドспан社の製品である「NEXUS(ネクサス)」を国内へ導入する方針へ変更いたしました。

同製品は既に製品化されており、弓部に特化した分岐付き胸部用ステントグラフトとしては初めてCEマーク申請を行っていることから、共同開発品の上市に比べ、導入までの期間と費用面でメリットがあることと、独自の構造の採用により、合併症の軽減が期待できることから方針変更に至りました。なお、この変更に伴い、エンドロジックス社との共同研究開発は終了となりますが、同社とは腹部領域において、「Ovation(オベーション)」や「Nellix(ネリックス)」といった次世代の製品の早期上市に向けて、協力体制をさらに強化してまいります。



分岐付き胸部用ステントグラフト
「NEXUS(ネクサス)」

Q 人工弁関連ビジネスの終了について教えてください。

A 当社は1990年にカーボメディクス社製人工心臓弁の取扱いを開始し、現在に至るまで人工弁関連製品を医療現場に提供してまいりましたが、来年5月末の現契約の期間満了をもって契約を更新せず、販売を終了することを決定いたしました。これにより、短期的には人工血管関連ビジネスに集中することになりますが、当社には心臓弁膜症治療領域における長年の経験と、販売体制が既に整っていることから同領域への再参入につきまして、検討を行ってまいります。

Q 通期業績見通しについて教えてください。

A 上期業績につきましては、全体として概ね計画の範囲内の実績となったものの、通期業績見通しにつきましては、本年11月2日に下方修正を行いました。販売面では前述のとおり、薬剤溶出型冠動脈ステントで引き続き厳しい競争環境が予想されることや、リズムデバイスにおいて、現行商品の販売が来年8月に終了することに伴い、販売が減少するリスクを踏まえ、下期の販売計画の引き下げを行いました。販売費及び一般管理費におきましては、当初計画と概ね同水準の支出を見込んでおります。

通期におきましても、上期と同様に、前期に計上した未実現利益の調整に伴う売上総利益のプラス効果(11億7千万円)が無いこともあり、営業利益については減益となる見通しではありますが、事業体制の整備を進め、中長期的な成長に向けた基盤をさらに確かなものとしてまいります。

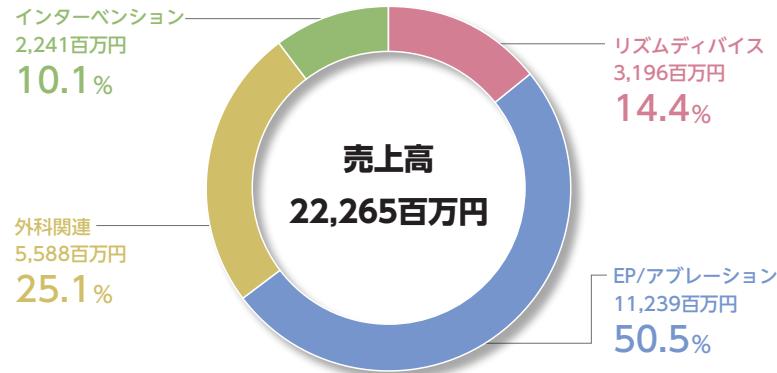
■ 2019年3月期業績予想(本年11月2日発表)

売上高	46,762百万円 (前期比10.6%増)	▲
営業利益	10,383百万円 (前期比 2.7%減)	▼
経常利益	10,745百万円 (前期比 0.1%増)	▲
親会社株主に帰属する当期純利益	7,530百万円 (前期比 0.7%増)	▲

品目別売上高

Sales By Product

当社では心臓循環器領域の幅広い疾患に対応する医療機器を扱っており、国内外のメーカーから仕入れた商品のほか、自社グループ製品としてEPカテーテル、アブレーションカテーテル、バルーンカテーテル、ガイドワイヤーおよび人工血管等を販売しております。



リズムデバイス 不整脈を治療する 植込み型の医療機器を扱う

売上高構成比
14.4%

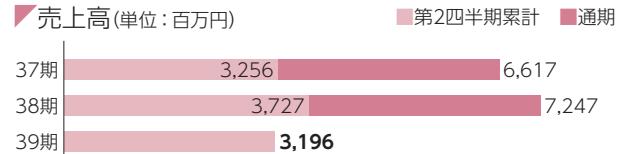
主要取扱品目

- ・心臓ペースメーカ
- ・ICD (植込み型除細動器)
- ・CRT-D (除細動機能付き両心室ペースメーカ)



心臓ペースメーカ

心臓ペースメーカにおきましては、仕入先の製品供給力に制約があり、遠隔モニタリング装置の数量が確保できていないことから、販売数量が前年同期に比べ減少いたしました。
またICD関連におきましては、新商品を導入したものの、競合他社の取り扱うMRI (磁気共鳴画像) 検査に対応した製品の影響により、販売数量が前年同期に比べ減少いたしました。
以上により、リズムデバイスの売上高は、31億9千6百万円 (前年同期比14.2%減) となりました。



EP/アブレーション 不整脈の検査や治療を行う 電極カテーテルを扱う

売上高構成比
50.5%

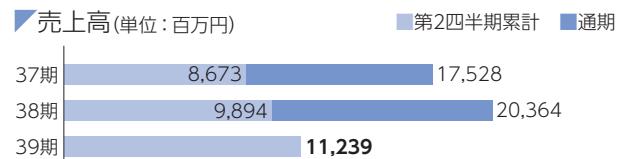
主要取扱品目

- ・EP (電気生理用) カテーテル
- ・アブレーションカテーテル
- ・内視鏡レーザーアブレーションカテーテル
- ・心腔内除細動カテーテル
- ・食道温モニタリングカテーテル
- ・高周波心房中隔穿刺針



心腔内除細動カテーテル

心房細動のアブレーション治療の症例数が増加しており、当社のオンリーワン製品である心腔内除細動カテーテル [BeeAT (ビート)] を中心として売上高が前年同期に比べ増加いたしました。
本年7月より、内視鏡レーザーアブレーションカテーテル [HeartLight (ハートライト)] の販売を開始したことにより、アブレーションカテーテルの売上高が前年同期に比べ増加いたしました。
以上により、EP/アブレーションの売上高は、112億3千9百万円 (前年同期比13.6%増) となりました。



外科関連

血管や心臓の弁を置き換え
治療する医療機器を扱う

売上高構成比
25.1%

主要取扱品目

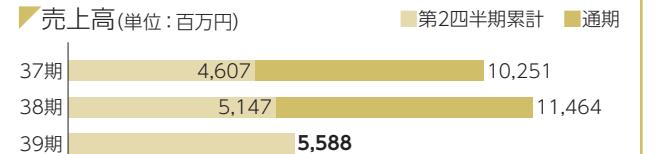
- ・人工血管
- ・ステントグラフト
- ・人工弁輪
- ・オープンステントグラフト
- ・人工心臓弁
- ・血液浄化関連商品



オープンステントグラフト

人工血管関連におきましては、腹部用ステントグラフト [AFX2ステントグラフトシステム] や、自社製品であり、当社のオンリーワン製品であるオープンステントグラフト [J-Graft FROZENIX (ジェイグラフト・フロゼニクス)] や人工血管が堅調に推移いたしました。

一方、人工弁関連におきましては、経カテーテル大動脈弁留置術の普及により、当社が取り扱う生体弁の販売数量は前年同期に比べ減少いたしました。
以上により、外科関連の売上高は55億8千8百万円 (前年同期比8.6%増) となりました。



インターベンション 心筋梗塞等を治療する カテーテル等の医療機器を扱う

売上高構成比
10.1%

主要取扱品目

- ・バルーンカテーテル
- ・ガイドワイヤー
- ・貫通用カテーテル
- ・心房中隔欠損閉鎖器具
- ・薬剤溶出型冠動脈ステント

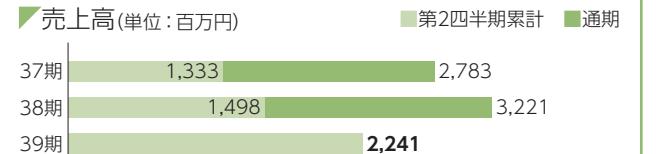


バルーンカテーテル

バルーンカテーテルおよびガイドワイヤーは、公道価格引下げの影響により、前年同期に比べ売上高が減少いたしました。

また、貫通用カテーテル [Guideliner (ガイドライナー)] は、競合製品の影響により、売上高が減少いたしました。一方で、本年3月より販売を開始した薬剤溶出型冠動脈ステント [Orsiro (オシロ)] は、当初計画を下回っているものの、売上高の増加に寄与いたしました。

以上により、インターベンションの売上高は、22億4千1百万円 (前年同期比49.6%増) となりました。

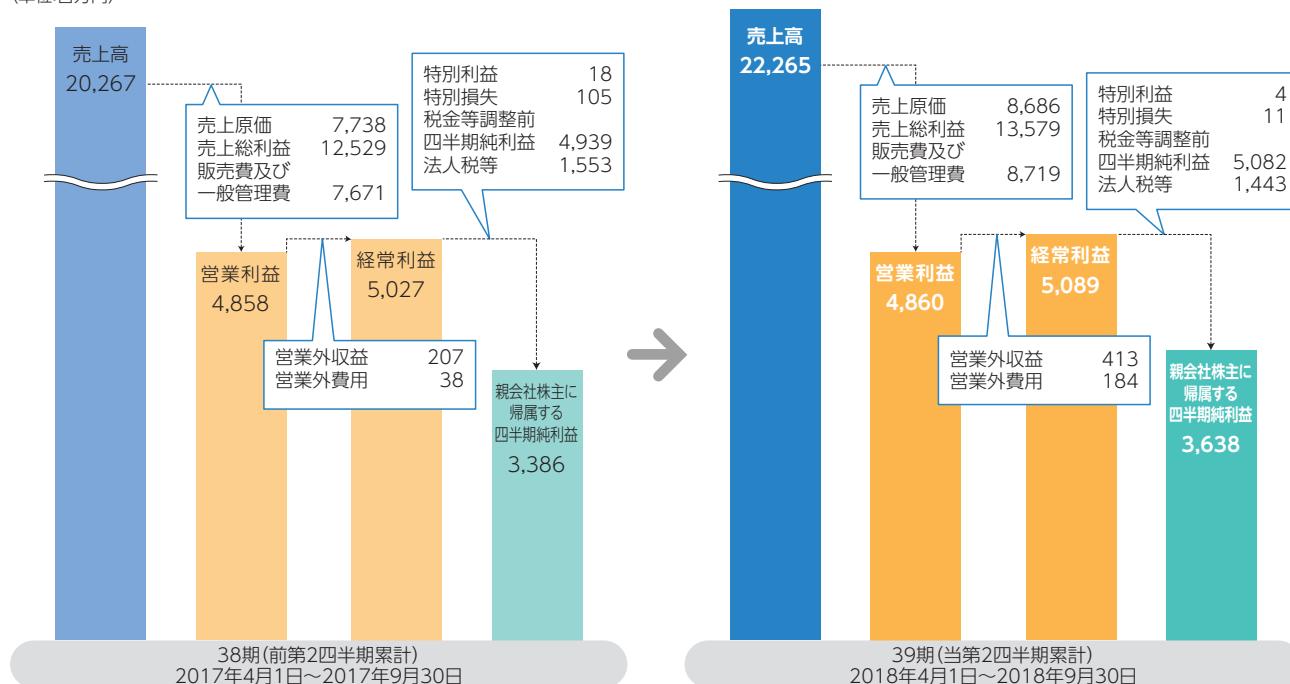


連結財務諸表

Consolidated Financial Statements

四半期連結損益計算書の概要

(単位:百万円)



営業利益

収益性の高い製品が伸長したことから、単体ベースにおける売上総利益率は改善いたしました。その一方で連結ベースでは、子会社合併に伴う未実現利益の調整として、前年同期に計上した5億2百万円の売上総利益のプラス効果が当期には生じず、売上総利益率は前年同期に比べ0.8ポイント低下いたしました。また、販売費及び一般管理費におきましては、体制強化に向けた人員増に伴う人件費のほか、新商品導入に伴う広告宣伝費や自社製品の開発費用等が増加いたしました。

以上により、当第2四半期連結累計期間の営業利益は計画を上回る48億6千万円(前年同期比0.0%増)となりました。

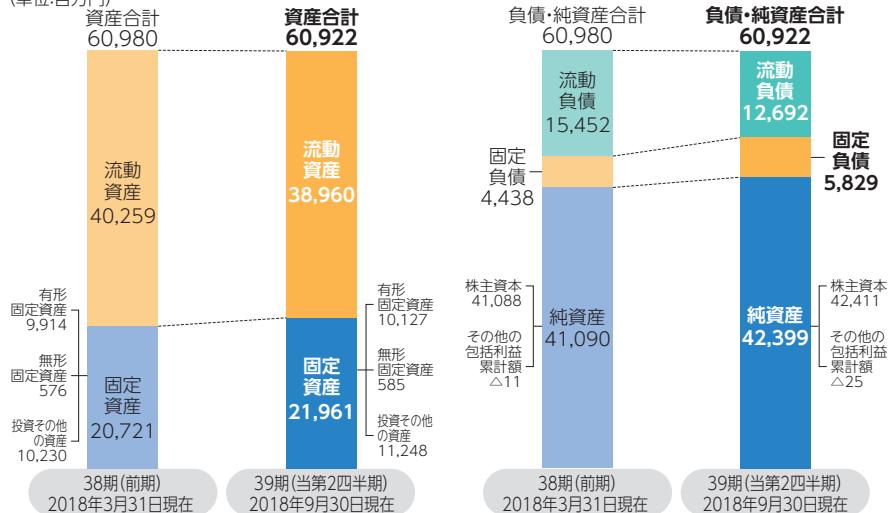
経常利益および親会社株主に帰属する四半期純利益

為替差益や受取利息等をはじめとする営業外収益を4億1千3百万円、投資有価証券の評価損および支払利息等を営業外費用として1億8千4百万円計上したことから、当第2四半期連結累計期間の経常利益は50億8千9百万円(前年同期比1.2%増)となりました。

投資有価証券売却益等を特別利益として4百万円、固定資産除却損を特別損失として1千1百万円計上したことから、当第2四半期連結累計期間の親会社株主に帰属する四半期純利益は36億3千8百万円(前年同期比7.4%増)となりました。

Ⅱ 四半期連結貸借対照表の概要

(単位:百万円)



流動資産

有価証券が59億9千9百万円減少した一方で、現金及び預金が19億7千9百万円、たな卸資産が21億6千4百万円増加したことにより、前連結会計年度末に比べ12億9千8百万円減少し、389億6千万円となりました。

流動負債

短期借入金が10億円、支払手形及び買掛金が4億8千4百万円、未払金が4億7百万円減少したことにより、前連結会計年度末に比べ27億5千9百万円減少し、126億9千2百万円となりました。

固定負債

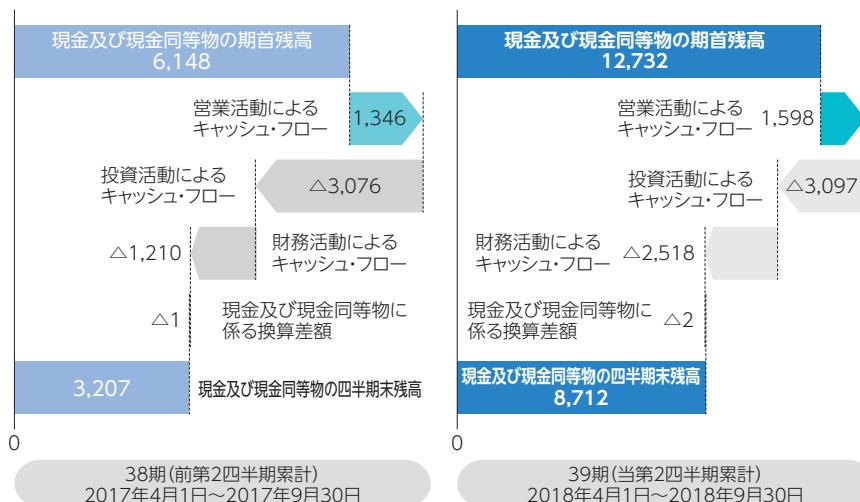
長期借入金が12億3千3百万円増加したことにより、前連結会計年度末に比べ13億9千1百万円増加し、58億2千9百万円となりました。

営業活動による キャッシュ・フロー

税金等調整前四半期純利益が1億4千3百万円増加した50億8千2百万円を計上した一方で、たな卸資産の増加による支出が21億7千4百万円、仕入債務の減少による支出が4億6千2百万円(前年同期はそれぞれ8億5千1百万円と3億9千万円の支出)となったことにより、前年同期と比較して2億5千1百万円増加した15億9千8百万円の収入となりました。

Ⅲ 四半期連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位:百万円)



会社概況

Corporate Data

■ 会社概要 (2018年9月30日現在)

商号	日本ライフライン株式会社
所在地	東京都品川区東品川二丁目2番20号
設立	1981年2月6日
資本金	2,115,241,600円
従業員数	連結959名 単体873名
上場取引所	東京証券取引所 第一部
連結子会社	SYNEXMED(HONG KONG)LTD. 心宜医療器械(深圳)有限公司

■ 役員 (2018年9月30日現在)

代表取締役社長	鈴木 啓介	取締役 出井 正
代表取締役副社長	鈴木 厚宏	取締役 干場由美子
常務取締役	高橋 省悟	社外取締役 佐々木文裕
取締役	黒沼 孝之	社外取締役 池井 良彰
取締役	野上 和彦	常勤監査役 神谷 安恒
取締役	山田 健二	社外監査役 中村 勝彦
取締役	渡辺 修	社外監査役 浅利 大造
取締役	高宮 徹	

■ 事業所 (2018年10月1日現在)

- 本社
リサーチセンター
戸田ファクトリー
小山ファクトリー
市原ファクトリー
羽田ロジスティックスセンター
関西ロジスティックスセンター
天王洲アカデミア
- 営業所32、出張所15



工場見学会のご案内

当社事業へのご理解をより一層深めていただくために、株主様向け工場見学会を実施いたします。当日は当社の主要製品であるEPカテーテル等の製造工程をご見学いただけます。皆様のご応募を心よりお待ちしております。

◆ 日時

2019年3月7日(木) 14:00~17:00(予定)

◆ 集合・解散

JR戸田公園駅(工場との往復は当社手配のバスでご移動いただけます。)

◆ 見学施設

日本ライフライン株式会社
戸田ファクトリー(埼玉県戸田市 Medical Technology Park内)

◆ 募集人数

20名(同伴者をご遠慮ください。)

※2018年9月30日現在、当社株式100株以上をご所有の株主様とさせていただきます。

◆ 参加費

無料(ただし、集合・解散場所までの往復交通費は各自のご負担をお願いいたします。)



◆ 応募方法

同封の応募はがきに必要事項をご記入の上、お申し込みください。

◆ 締め切り

2019年1月31日(木)消印有効

◆ 抽選結果および参加確認のご連絡

- ・ 抽選の結果、当選された株主様には、2019年2月中旬までに郵送にてお知らせの上、お電話にてご参加の確認をさせていただきます。
- ・ 残念ながら落選された株主様にはご連絡いたしませんので、あらかじめご了承ください。

◆ お問い合わせ先

日本ライフライン株式会社 経営企画課
03-6711-5214
受付時間9:00~17:30(土・日・祝日を除く)

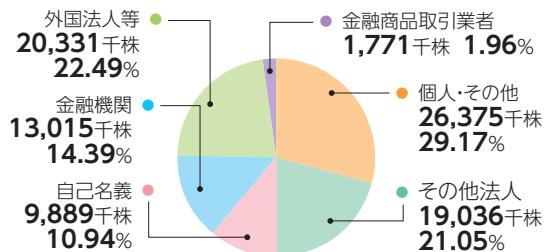
株式の状況 (2018年9月30日現在)

発行可能株式総数	346,400,000株
発行済株式の総数	90,419,976株
株主数	16,362名

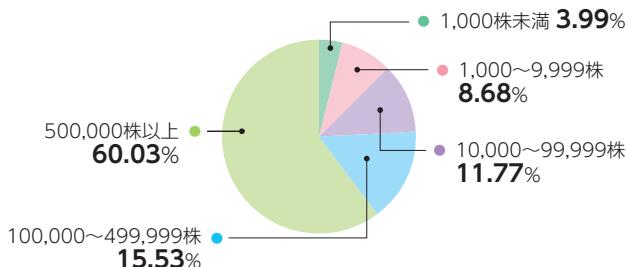
大 株 主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
エムティ商会株式会社	9,860	12.24
KS商事株式会社	8,368	10.39
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	2,750	3.42
鈴木啓介	2,650	3.29
BBH FOR MATTHEWS JAPAN FUND	2,318	2.88
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	1,998	2.48
GOLDMAN,SACHS& CO.REG	1,485	1.85
SSBTC CLIENT OMNIBUS ACCOUNT	1,299	1.61
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口5)	1,149	1.43
CIP AS DEPOSITARY FOR STANDARD LIFE INVESTMENT COMPANY GLOBAL SMALLER COMPANIES FUND	1,131	1.41

所有者別株式分布



所有数別株式分布



(注)持株比率は、自己株式(9,889,832株)を控除して計算しております。なお、自己株式には、「役員報酬BIP信託」に残存する当社株式115,800株は含まれておりません。

株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月
単元株式数	100株
定時株主総会の基準日	3月31日
配当金受領株主確定日	3月31日 なお、中間配当を実施する場合の株主確定日は、9月30日といたします。
公告方法	電子公告の方法により行います。 公告掲載URL https://www.jll.co.jp ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
〈お問合せ先〉	0120-232-711 (通話料無料)
〈インターネットホームページ〉	https://www.tr.mufg.jp/daikou/

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

- 住所変更、単元未満株式の買取・買増請求、配当金受取方法の指定・変更等
▶証券会社等の口座に株式をお持ちの株主様
口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
▶特定口座に記録された株式をお持ちの株主様
上記特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行
にお問い合わせください。
- 未受領の配当金について
未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店
でお支払いいたします。

本報告書の記載内容のうち、歴史的事実以外の事項につきましては、現時点で入手可能な情報に基づく当社の計画または将来予測であります。

実際の業績はさまざまなリスクや不確実な要因の影響により、本報告書の記載と異なる可能性がありますことにご留意ください。

最新の会社情報およびIR情報は当社ホームページをご覧ください

<https://www.jll.co.jp/investors/>

当社の最新ニュース、製品案内および財務情報等の株主・投資家の皆様向けの情報をご覧ください。

投資家情報メールマガジン

“IR-eNews”

IRの最新情報をお届けしております。ご登録は当社ホームページの投資家情報ページよりお願いいたします。



日本ライフライン株式会社

〒140-0002 東京都品川区東品川二丁目2番20号
電話 03-6711-5200
URL <https://www.jll.co.jp>



見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォント
を採用しています。